

東大海研事第88号
平成26年6月26日

各関係研究機関の長 殿

東京大学大気海洋研究所 所長
研究船共同利用運営委員会 委員長
新野 宏
(公印省略)

平成28・29・30年度学術研究船白鳳丸共同利用公募

ならびに研究計画企画調整シンポジウム開催について

学術研究船白鳳丸は、昭和43年度以来3か年毎に立案される航海計画に基づいて運航しています。本年は平成28～30年度の運航計画作成の年にあたります。

つきましては、別紙のとおり共同利用研究計画を公募し、個々の研究者の発意に基づく魅力的な研究航海計画を広く募り、研究計画企画調整シンポジウムを開催して各位のご意見を承りたいと存じます。シンポジウムでは、各々の研究航海計画を発表していただき、それらについて検討するとともに、今後の海洋研究の方向性を他の研究船の航海計画を含めて議論し、申請された研究計画相互の調整を行います。このシンポジウムを踏まえ、研究船共同利用運営委員会において各研究計画の評価を行い、3か年間の運航計画案を作成いたします。

この件に関しまして、貴機関の関係各位に広くご周知のうえ、白鳳丸共同利用計画申込書の提出ならびにシンポジウムへの参加についてご高配をくださいますようお願いいたします。

また、今回からは、この3か年運航計画とは別に、単年度毎に行う30日程度の運航日数を対象とした共同利用公募枠（以下、単年度運航計画枠）を設けることにいたしました。このため平成28年度以降は、従来通りの3か年運航計画の航海に参加して実施する小規模な研究計画に加えて、単年度運航計画枠についても共同利用公募を実施しますので、同様にご配慮いただければ幸いです。

公募要領-平成 28～30 年度学術研究船白鳳丸共同利用

1. シンポジウム開催日程 平成 26 年 11 月 25 日 (火) ～27 日 (木) 3 日間
2. シンポジウム開催場所 東京大学大気海洋研究所 講堂
3. 世話人 研究船共同利用運営委員会 研究船運航部会長 山崎俊嗣
4. 申し込み資格 国・公・私立大学及び公的研究機関の研究者、並びにこれに準ずる者としてします。
5. 乗船資格 国・公・私立大学及び公的研究機関の研究者、並びにこれに準ずる者、大学院学生、研究生、学部学生です。学部学生の乗船については、主席研究員の同意と当該学生の指導教員の乗船が必要となります。大学院学生、研究生、学部学生は「学生教育研究災害傷害保険」等への加入を条件とします。
6. 申し込み方法 郵送 (印要) と e-mail (印不要) の両方で行ってください。
学術研究船白鳳丸共同利用研究申込書 (平成 28・29・30 年度) 1 通 (様式 1)
e-mail による提出: Word ファイル (様式 1) を添付
7. 申し込み先 東京大学大気海洋研究所 事務部 国際・研究推進チーム
〒277-8564 千葉県柏市柏の葉 5-1-5
TEL:04-7136-6009, 6010 FAX:04-7136-6039
e-mail:iarp@aori.u-tokyo.ac.jp
8. 申し込み期限 平成 26 年 10 月 10 日 (金) (厳守)
9. 審査 研究船共同利用運営委員会の作業部会として、全国の海洋研究者の中から、各分野のバランスを考慮して選ばれた委員により組織される研究船運航部会 (18 名) において、申請された研究計画の評価作業を行います。評価にあたっては、研究目的・内容、研究実施計画の具体性・妥当性、研究業績、研究の先進性・学際性を総合的に検討し、この評価結果を基に、研究船共同利用運営委員会が計画を審議し、運航計画の最終案を作ります。
8. 採否の通知 平成 27 年 2 月上旬予定
9. 要目 白鳳丸の要目については添付資料をご覧ください。
10. その他 「申込書の作成にあたって」をよくお読み下さい。
本公募要領及び各申込書類は本所ホームページ
(<http://www.aori.u-tokyo.ac.jp/>) に掲載されています。
各申込書の書式はホームページよりダウンロードできます。
本公募内容等についてのお問い合わせは下記までお願いします。
11. 問合せ先 東京大学大気海洋研究所 研究航海企画センター
TEL:04-7136-8175
e-mail:kikaku@aori.u-tokyo.ac.jp

研究目的・内容

(研究の背景、研究目的・内容・重要性などをわかりやすくこの枠内で書いてください。)

白 鳳 丸

所属機関名

研究代表者氏名

研究計画

(前記の目的を達成するためにどのような観測を実施するのか、観測点、観測測線、観測日数の算出根拠などがわかるように書いてください。観測海域と観測点の概略がわかる簡単な地図をつけてください。他計画との関連、他研究機関との具体的連携など、審査の参考となるものがあればこの枠内で書いて下さい。)

白 鳳 丸	所属機関名		研究代表者氏名	
-------	-------	--	---------	--

研究計画 (つづき)

観測希望時期等 (観測希望時期、寄港地など、航海計画作成に関連する要望事項があれば理由とともに書いてください。)

その他の特記事項 (先進性・学際性・裏付けとなる研究費・国際性など、審査の参考となるものがあれば記入してください。)

白 鳳 丸

所属機関名

研究代表者氏名

研究業績

(本研究計画に関連する業績について、別紙を使用せず枠内で書いてください。研究代表者名に二重アンダーライン、研究分担社名にアンダーラインを引いてください。学術研究船白鳳丸・淡青丸で得られたものは、末尾にHまたはTのように示してください。)

白 鳳 丸	所属機関名		研究代表者氏名	
-------	-------	--	---------	--

使用観測機器

乗船研究者が持込む観測機器 (名称・数量・重量)

搭載を希望する共同利用観測機器

白 鳳 丸

所属機関名

研究代表者氏名

申込書の作成にあたって

この申込書は、研究船共同利用運営委員会における選考ならびに研究計画案の作成にあたって重要な資料となりますので、正確に記入してください。他計画との統合を行う可能性もありますので、必ずしも大規模なものである必要はありません

1. 研究課題：一つの研究課題と考えられるものを複数に分けて申請することは避けて下さい。所属にかかわらず、同一の研究グループによる同一の研究内容の申し込みは、一つの申し込みにまとめて提出してください。
2. 乗船者：乗船するすべての研究分担者（大学院学生等を含む）の氏名・研究分担・所属機関・職名（学年）を記入してください。今後入学予定の大学院学生に関しては、氏名欄に氏名の代わりに“入学予定”と記入し、予定の研究分担、所属機関、学年を記入してください。
3. 観測日数：観測に要する実日数（寄港地から観測海域までのトランジットに要する日数を除く）を記入してください。
4. 乗船時に外国の大学・研究機関等に所属する乗船者は、共同利用手続き上、日本の大学・研究機関等に受け入れていただかないと、共同利用経費からの食費等の支給ができません。
5. 日本の領海（12海里）外に機器を設置・放流する場合、輸出貿易管理令で規定する機器に該当するかどうか留意して下さい。採択された場合、該当機器は研究者が所属する機関を通じて許可申請を行ってください。
6. MSR 申請（海洋の科学的調査の同意申請・Marine Scientific Research）について：外国の管轄水域（領海・排他的経済水域（EEZ）等）において、海洋の科学的調査を実施する場合は、国連海洋法条約に基づき沿岸国に対して調査開始の少なくとも6か月前までに外交ルートを通じて申請し、同意・許可を得なくてはなりません。国連海洋法条約を批准していない米国も同様の手続きが必要です。この項目に該当する場合は「有」として該当国を記入してください。また、この項目に該当する研究代表者の方は、シンポジウム開催中に開かれる MSR 申請の説明会に必ず参加してください。

研究船要目

学術研究船白鳳丸

1. 要目

全長	100.0m	主機関	1,900PS×4
幅(型)	16.2m	推進用電動機	460KW×2
深さ(型)	8.9m	推進用発電機	1,085KW×2
(推進システム ディーゼル直結・電気推進切替方式)			
総トン数	3,991トン		
航海速力	16ノット	軸系 2軸・2舵	可変ピッチプロペラ
航続距離	12,000マイル	主発電機	715KW×3
研究員	35名	精密電源装置	AC100V 80KVA×60Hz×2
燃料油タンク	1,048 m ³		AC120V 6KVA×400Hz×2
飲料水タンク	382 m ³	バウスラスター推力	4.2t×2
蒸留水タンク	106 m ³	スタンスラスター推力	6.8t×1

※航海計画時は速力15ノットで計算してください。

2. 最大乗船研究者数 35名

3. 研究設備及び観測機器

(1) 研究室

No. 1	ドライラボ	No. 2	R I ラボ セミドライラボ
No. 3	ドライラボ	No. 4	クリーンラボ
No. 5	セミドライラボ	No. 6	セミドライラボ
No. 7	ウエットラボ	No. 8	—
No. 9	重力計ラボ	No. 10	低温ラボ
	リサーチルーム		

その他 冷凍庫 (-20℃)、サンプル庫 (冷蔵~-20℃)、薬品庫、採水器室、暗室

(2) 研究室電源

一般電源 AC100V, 220V 60Hz

精密電源 AC100V, 60Hz

(3) 観測用ウインチ (ワイヤー長は平成26年5月現在)

No. 1 14.00 mm φ × 11,789m 大型測器

No. 2 8.15 mm φ × 7,943m チタンアーマードケーブル CTD・VMPS 等

(※キック箇所があるため5400mに制限中)

No. 3 6.40 mm φ × 11,104m チタンワイヤー 採水用

No. 4 9.00 mm φ × 7,545m 中・大型測器

No. 5 ロープウインチ (14 mm φ × 6,000m 使用可能) 係留用

No. 8 3.00 mm φ × 1,500m ステンレスワイヤー 小型測器

(4) 観測補助設備

起倒式ガントリー (安全荷重 3 t)、
伸縮ビーム (最大動荷重 11 t アウトリーチ 2.0 m)、
デッキクレーン (定格荷重 3 t 荷役半径 最小 3.5 m 最大 21 m)、
ダビッド及びブーム (3 基)
作業艇 (4.41 m × 1.95 m × 0.75 m)

(5) 研究用観測機器等

* 船舶搭載機器

マルチナロービーム海底地形連続測定装置
深海用精密音響測深機 (PDR)
人工衛星 (NOAA) データ受信装置
気象観測装置
地層探査装置 (SBP)
生物資源音響探査装置 (※スキャニングソナーは使用不可)
エアガンコンプレッサー
ドップラー流速計 (ADCP)
船上重力計
液体シンチレーションカウンター
音響測位装置
超純水製造装置 他

* 共同利用観測機器 (別紙参照)

カテゴリⅡの観測機器の利用については各管理分野の了解が必要です。
状況によっては利用できない可能性もあることをご了承ください。

* 航海計器・その他

航海用ジャイロコンパス、オートパイロット、電磁ログ、音波ログ、レーダー、
衝突予防装置、航法・観測データロギング装置、方向探知器、航法制御装置、
気象警報自動送受信装置、ジョイスティックコントロールシステム、GPS、
海事衛星通信装置、気象用ファクシミリ、高速ファクシミリ、船内ネットワーク、
電子メール 他

共同利用観測機器(白鳳丸搭載可能機器)一覧

2014年6月現在

カテゴリーI

観測研究推進室が管理する観測機器

観測機材
CTDセンサー
採水器(5L)
採水器(12L)
キャローセル&フレーム
LADCP
酸素瓶(WOCEタイプ)
塩検瓶
溶存酸素自動滴定装置
塩分計(オートサル、ポータサル)
甲板水槽
ORIネット
NORPACネット(シングル)
NORPACネット(ツイン)
MTDネット(φ56cm)
MTDネット(φ80cm)
IKMTネット(10フィート)
VMPSネット(3000D-0.25m ²)
MOHTネット(1.5×1.5m)
ニューストーンネット
ネット監視システム(スキャンマー)
小型メモリ式-CTD
小型メモリ式-TD
小型メモリ式-CT
フローメーター
超低温フリーザー
空中光量子計
蛍光光度計(ターナー)
フィリストラップ巻取装置
送風乾燥器*1
GPSブイ
船上三成分磁力計
プロトン磁力計
岩石ドレヅ
マルチプルコアラー
ピストンコアラー
エアガン
ストリーマーケーブル&ウインチ(48ch・1200m)
オケアングラブ採泥器
ピンガー

カテゴリーII

各分野が管理する観測機器

観測機材	担当
VMPSネット(6000D-0.5m ²)	浮遊生物分野
表層モニタリングシステム	浮遊生物分野
VMP(乱流計)	環境動態分野
オーブコムブイ	環境動態分野
音響切離装置	環境動態分野
ガラスブイ	海洋大循環分野
流向流速計	海洋大循環分野
係留型ADCP	海洋大循環分野
トランスポンダー	海洋地球物理学分野
ストリーマーケーブル&ウインチ(288ch・1800m)	海洋地球物理学分野
サイドスキャンソナー	海洋底地質学分野
NSS	海洋底地質学分野
ビームトロール	底生生物分野
生物ドレヅ	底生生物分野
デジタル転倒温度計	海洋無機化学分野
大量採水器&処理槽	海洋無機化学分野
ラージバンドン採水器	海洋無機化学分野

<問合せ先>

東京大学大気海洋研究所 観測研究推進室

TEL:04-7136-6454 FAX:04-7136-6448

e-mail:kansoku@aori.u-tokyo.ac.jp